

～ 繁殖成績を改善させる発情発見 ～
積極果敢な再授精にチャレンジする

前回に引き続き、今回は再授精の頻度を高めて繁殖成績を向上させるお話です。

● 発情は再発すると心得よ！

再授精に関してはこの一言に尽きます。繁殖成績が上がってこない、安定しない農場の多くはとにかく再発情を見つけれられていない農場が多いです。

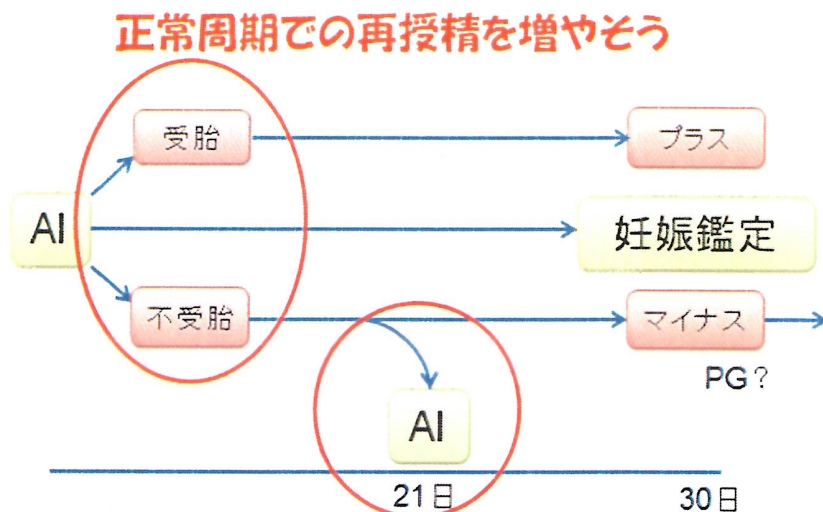
● 受胎率 40% → 授精しても半分以上は再発が来る！

自身の農場の受胎率は何%くらいでしょうか？時期にもよりますが、だいたい 20～50%くらいで推移しているはず。つまり授精した牛の半分以上は約 3 週間後に再発情が来るはずなのです。どのようなホルモン治療（オブシンクやシダーなど）で授精をおこなっても 50%以上の受胎率を確保し続けるのは困難です。むしろ一度ホルモン治療で発情が来て授精した牛は次の再発も見つけやすくなったと考えてもっと 3 週間後に集中してみましょう。

● 授精した牛の転帰を知る！

検診でのプラス率を上げよう

ある日、発情が来て授精された牛はその時点で 1 か月後の妊娠鑑定でプラスと言われるかマイナスと言われるかはほぼ確定しています。このマイナスの牛に対しては、早く再授精できるかが農場の繁殖成績（妊娠率や空胎日数）を良くする近道となります。授精して不受胎の牛は約 21 日後に再発情が来ます。この再発情を発見でき、再授精できるのがいわば『最速の妊娠鑑定』と言えるでしょう。この再発情を見



逃し、妊娠鑑定でマイナスと分かってから PG やオブシンクなどのホルモン治療を開始すると授精間隔は 40 日近くなってしまいます。妊鑑でマイナスでホルモン治療をしようとする「次の周期を追う」と言い出す方もいらっしゃいますが、「すでに 1 回再発を見逃している」ということを強く自覚してください。プラスの牛が妊娠鑑定されるのが 1 ヶ月先だろうが 2 ヶ月先だろうが繁殖成績に影響は及ぼしません。それよりも妊娠鑑定でマイナスの牛をどれだけ減らせるかが繁殖成績向上のキーポイントです。目標として検診での妊鑑プラス率 80%以上を目指しましょう。繰り返しますが空胎日数 120 日を超えると 1 日ごとに 1 頭当たり約 1500 円の損失が出ています。

● 再発情の発見率と繁殖成績の比較

Interval analysis:再授精時の日数とその割合

I 牧場

妊娠率 22%
空胎日数 117日
授精開始 73日
授精間隔 30.4日

授精間隔	受胎率	妊娠頭数	空胎頭数	その他	流産	合計	割合
1～3日	36	12	21	1	1	34	5
4～17日	26	16	45	1	0	62	9
18～24日	42	106	145	20	6	271	40
25～35日	39	45	70	7	3	122	18
36～48日	31	37	81	13	1	131	19
48日以上	37	18	31	11	2	60	9
全体	37	234	393	53	13	680	100

K 牧場

妊娠率 18%
空胎日数 138日
授精開始 81日
授精間隔 38.4日

授精間隔	受胎率	妊娠頭数	空胎頭数	その他	流産	合計	割合
1～3日	0	0	7	0	0	7	2
4～17日	26	8	23	0	0	31	8
18～24日	60	32	21	1	0	54	14
25～35日	34	20	38	2	2	60	16
36～48日	40	61	90	3	5	154	40
48日以上	34	26	51	3	3	80	21
全体	39	147	230	9	10	386	100

上の表はI 牧場と K 牧場において一度授精してから次の授精が行われるまでの授精間隔日数ごとの頭数の割合と受胎率を示しています。例えば、授精してから 1～3 日以内に再授精した場合、それは最初の授精のタイミングが早すぎたということで、そのような牛の頭数や割合が多いと発情発見の正確性に問題がある可能性があります。それぞれの授精間隔の意味は下記のようになります。

・**1～3 日**：連続授精。発情発見して授精するまでが早い。目標は全体の **5%以下**

・**4～17 日**：再授精が正常周期である 21 日より極端に早い場合、最初の授精か再発情時の授精のどちらかが本当の発情ではない可能性が高い。囊腫が多い場合は増える傾向にあります。目標は **10%以下**

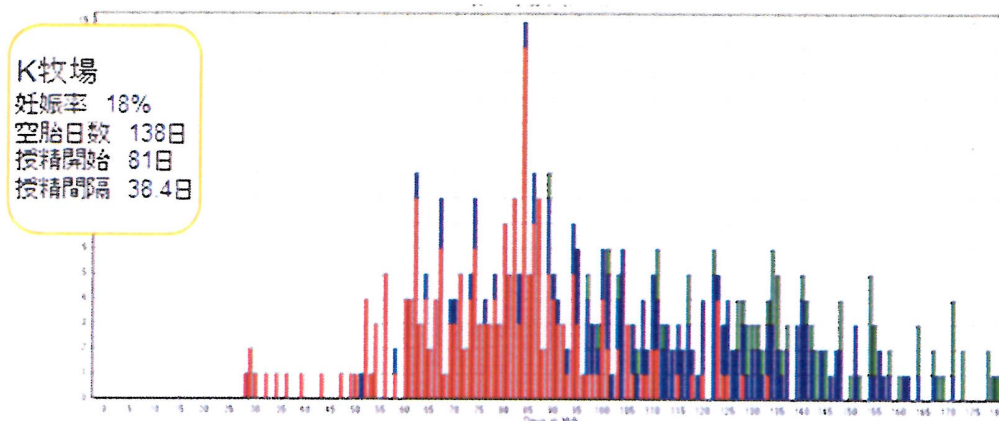
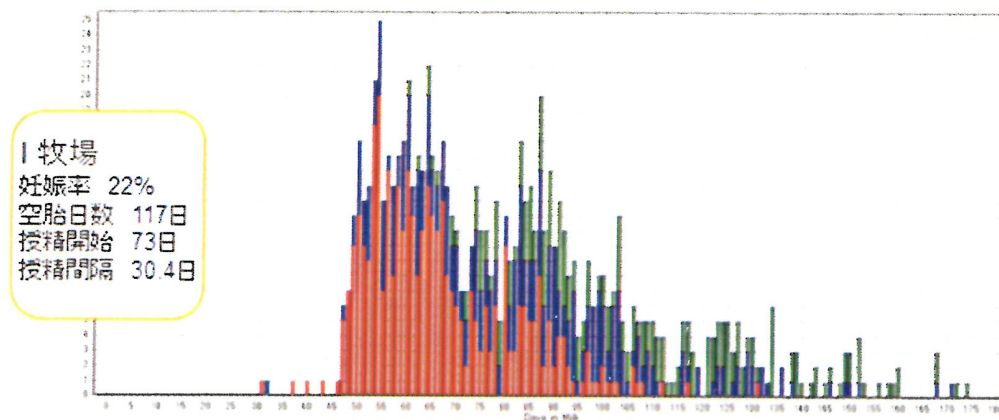
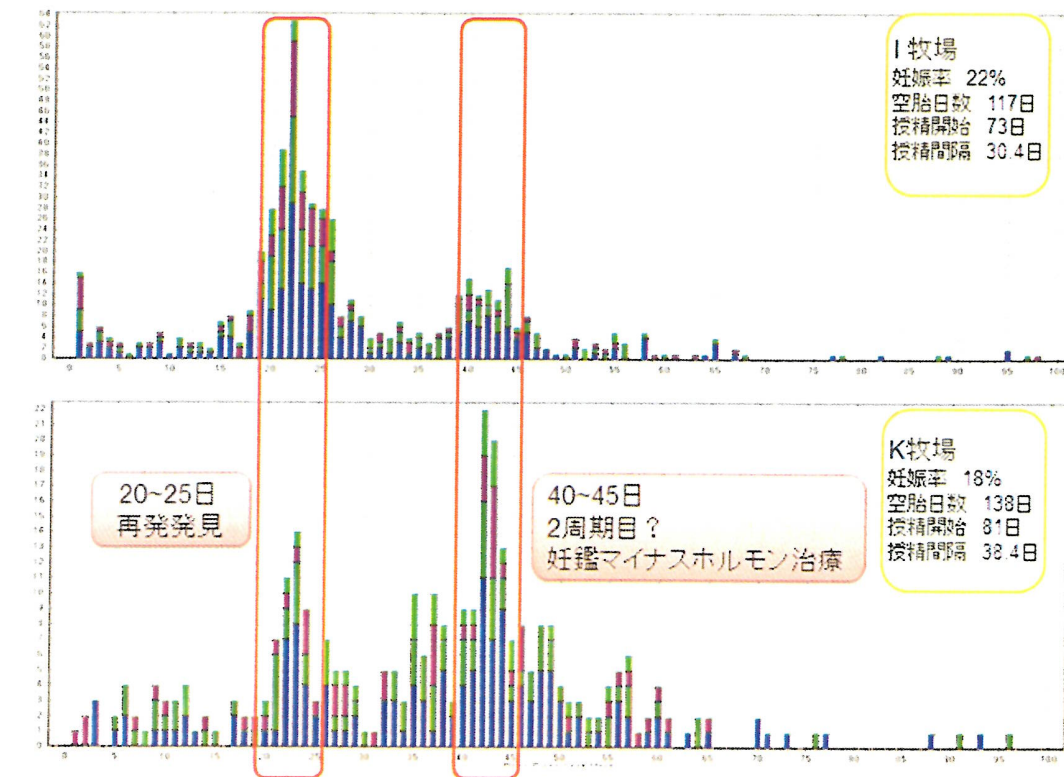
・**18～24 日**：正常周期による再発情を発見し、授精できた割合。この割合が多いということは発情発見がより正確で再発情をしっかりと発見できています。目標は **40%以上**

・**25～35 日**：一度受胎したが早期胚死滅を起こした場合に正常周期以降に再発情が来たりします。または最初の授精か次の授精のどちらかが本当の発情ではなく、発情発見の正確性に問題があるかもしれません。目標は **15%以下**

・**36 日以降**：2 周期目の再発情の発見というよりも繁殖検診で妊娠マイナスによるホルモン治療が多い農場はこの比率がどんどん増えていきます。目標は **30%以下**

I 牧場と K 牧場を比較した場合、正常周期での再発情の発見の割合に大きな差があり、両牧場の繁殖成績の良し悪しに差が出てきています。いずれの牧場も正常周期で再発情を発見できた場合、その受胎率は平均よりも高くなっています。基本的に正確な発情発見は受胎率を高めるので、正常周期の再発を見つければ見つけるほどより受胎率が向上する可能性があり、発情発見率も大幅に上昇してきます。

前ページの表の分布図：両牧場で再発情発見の違いがよくわかります。



上のグラフは二つの牧場の初回授精（赤）、2回目授精（青）、3回目授精（緑）した牛のDIMごとの分布図です。I 牧場は再発情発見が良好で早いDIMで速やかに2回目、3回目に授精されている牛が多く見られるのに対し、K 牧場は、まず初回授精も遅れ気味でかつ2回目、3回目授精も間延びしているのが見て取れます。

積極果敢な再発情発見に努めましょう！